



「あの日、そしてこれから」
高橋邦典：著 ポプラ社
宮城県出身のカメラマンである著者が東日本大震災後の被災者の生活取材・撮影。数々の写真と共に語られる被災者の言葉は、悪夢のようですが、厳しい現実そのもののようです。

高校生と一緒に学ぼう

邑久高校開放講座

現役高校生に交じって高校で授業を受けることができる学校開放講座を開講します。開放する講座は、岡山県立邑久高等学校3年生の選択授業で行っている3講座です。

一般の人も楽しく学ぶことのできる内容です。高校生と机を並べて共に学んでみませ



机を並べて共に学ぶ

んか。

▽開放講座 絵画、数学基礎、コンピュータデザインの3講座

▽日程 45分授業を週2回（4～12月）

▽募集人数 各講座5人

※希望者多数の場合は、選考または抽選により決定します。

▽対象 市内在住者

▽受講料 無料（教材費などは、実費徴収）

▽申込方法

受講を希望する人は、3月15日（金）までに、中央公民館（邑久）で仮申し込みをしてください。

4月に入り、授業日程などの詳細が決まり次第連絡します。受講が可能な場合は、その後、正式な申し込みをお願いします。

■問い合わせ先

中央公民館

受講者募集

高齢者学級

中央（邑久）・牛窓・長船の各公民館では、高齢者を対象とした講座を開講しています。講演会や演奏会、移動教室（研修旅行）など、多彩な講座を計画しています。

現在、平成25年度の受付を各公民館で行っています。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

たくさん仲間と楽しく学び、心豊かな、生きがいのある生活を過ごしましょう。

【邑悠学級】

▽対象者

市内在住の60歳以上の

▽日程 毎月第3木曜日

▽場所 中央公民館（邑久）

【いきいき学級】

▽対象者

牛窓地域に在住の60歳以上の

▽日程 毎月第4金曜日

▽場所 牛窓町公民館

【ふれあい学級】

▽対象者

長船地域に在住の60歳以上の

▽日程 毎月第4木曜日

▽場所 長船町公民館

■問い合わせ・申込先

各公民館



昔懐かしい曲を聴いて楽しんだ演奏会

Books



ひまわりのおか

ひまわりをうえた八人のお母さんと葉方丹…文 松成真理子…絵 岩崎書店

東日本大震災による津波で、石巻市立大川小学校の多くの子どもたちが亡くなりました。お母さんたちは「育てられる命」を求めて、丘の上にひまわりを植えました。お母さんたちのわが子への思いをもとに誕生した絵本です。

錦海湾の埋め立て

瀬戸内発見伝

巻の九十八

牛窓オリーブ園から南を望んだ瀬戸内海の多島美は有名ですが、北側の景色はあまり知られていません。この牛窓オリーブ園や道の駅一本松展望園から望むことのできる丘陵と海に囲まれた広大な平地は、以前は「錦海湾」や「長浜湾」と呼ばれた海でした。

海だったころの記録

江戸時代の記録『備陽記』を見ると、尻海村は「海辺山寄セ加子浦（漁民としての夫役が課せられた漁村）」、小津村は「海辺過半山ノ上」、奥浦村は「海辺山寄セ」と錦海湾に面した村々の地勢が記され、海岸線近くに山が迫る平

地の少ない土地であったことがわかります。師楽遺跡などからは製塩土器が大量に見つかっており、古代には兄島とともに塩の一大生産地でした。

明治30年頃の錦海湾は、遠浅の海であり、湾の奥に位置する奥浦では潮時を考えないと50石積の小船すら出入りが困難でした。海産物が豊かで稚魚が良く育ち、特に白藻は有名で、『備陽記』に「邑久郡小津奥浦の磯辺にて取る白藻はふとくやはらか也。是を名物とす」と記されています。

百有余町歩の開墾干拓事業

錦海湾の開発は、江戸時代には既に行われており、小

な入江が埋め立てられ新田や塩田が作られました。錦海湾の景観が大きく変わる開発は、明治36（1903）年に杉山岩三郎が海面168町2反4畝17歩（約167畝）の海面開墾願を岡山県知事に提出したことに始まります。

この開墾は、錦海湾は年々土砂が堆積し、海藻が繁茂し、高潮時の水深が6尺6寸（約2尺）、干潮時は一面干潟となり、土質が極めて良好なため、牛窓町字金ヶ崎と長浜村字岡ノ辻を一直線に結ぶ堤防を築き、人口増加に伴う食糧増産を目指すものでした。

工事は明治40（1907）年から行われましたが、完成間近の同44（1911）年の暴風雨により被害を受け延期されました。その後も工事は進まず、大正4（1915）年の暴風により堤防のほとんどが決壊し中断しました。

大正7（1918）年に開墾権が安田保善社に移転され、工事が再開。堤防を凹字型に変更し、当初の計画から約50町歩（約50畝）縮小されました。同8（1919）年には玉津・長浜・牛窓・鹿忍の各町村の青壮年団の応援により潮止めを行い、同12（1923）年に牛窓町と長浜村の間で、町村境界が協定されました。

この工事で築かれた堤防は旧堤防（安田堤防）と呼ばれ、一部が現在も残っています。開墾地ではキャベツや白菜などが作付けされ、収穫前には緑のじゅうたんのような美しい景観が広がります。

五百町歩の塩田

昭和30（1955）年、牛窓・長浜・玉津の三漁業組合長が岡山県知事室に集められ、錦海湾の大塩田造成について内々に打診がありました。同年、錦海塩業組合が設立



枝条架の並ぶ塩田